

サポート

シリーズ・パウロ 第4回



迫害者から宣教者へ

- 教会を迫害するためダマスコへ向かった
 - イエスをメシアと信じる者を「異端」と信じた
- 光に打たれ、イエスの声を聞いたパウロ
 - 3日間飲まず食わずで考えた
- アナニアに祈られ、目が開かれた
 - 肉体の目と同時に心の目が開かれた
- 即座に洗礼を受け、宣教者となった



ダマスコで

<使徒9:19~25>

- イエスがメシアであることを宣べ伝えた
- しばらくアラビアに行った(ガラテヤ1:17)
 - 一人砂漠で考えを整理し、神からの力を得た
- ダマスコで「かなりの日数」宣教した
 - 約3年間か？(ガラテヤ1:18)
- ユダヤ人に命を狙われるようになった
- 弟子たちによって命を救われた
 - カゴに乗せられて城壁の外に出た



エルサレムで

<使徒9:26～28>

- エルサレムに行き、弟子の仲間に加わろうとしたが、誰も彼を信じなかった
- バルナバがパウロを紹介した
 - パウロの回心と宣教の次第を説明した
- 使徒たちはバルナバの言葉を信用し、パウロを受け入れた
- パウロは恐れず教えるようになった



タルソへ

＜使徒9:29～31＞

- ギリシャ語を話すユダヤ人に命を狙われた
 - － パウロと同じ外国出身のユダヤ人たち
- エルサレムの「兄弟たち」に助けられた
 - － 「兄弟」とは教会の仲間のこと
- 彼らはカイサリアまでパウロに同行し、船でを彼の故郷タルソスへ行かせた
 - － パウロー人で行かせるのは危険だから



パウロを助けた人々

- ア 大使徒パウロでさえ
- 弟 多くの名のない人た
- バ ちの協力によって
- エ その人生は切り開か
- れていった

— パウロをカイサリアまで送った



神はなぜパウロにこのような 経験をさせられたのか

- 自分の人生の背後には神の大きな計画があることを教えようとされた
 - 自分の考えと神の計画は異なっていることを教えようとされた

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。＜ロマ8:28＞



神はなぜパウロにこのような 経験をさせられたのか

- 共に働く人々の大切さを教えようとされた
 - パウロは真っ直ぐな人で、自分一人の力で何でも成し遂げようとするタイプだった

あなたがたの間で労苦し、主に結ばれた者として導き戒めている人々を重んじ、また、そのように働いてくれるのですから、愛をもって心から尊敬しなさい。
＜ 1テサ5:12-13＞



- 神は私たちに対する計画をもとに、様々な出来事を通し、また周囲の人々によって私たちがを教え導いておられる
- 私たちは一人で考え行動し、時には一人で苦しんでいるように思うが、実は多くの人が支えている

